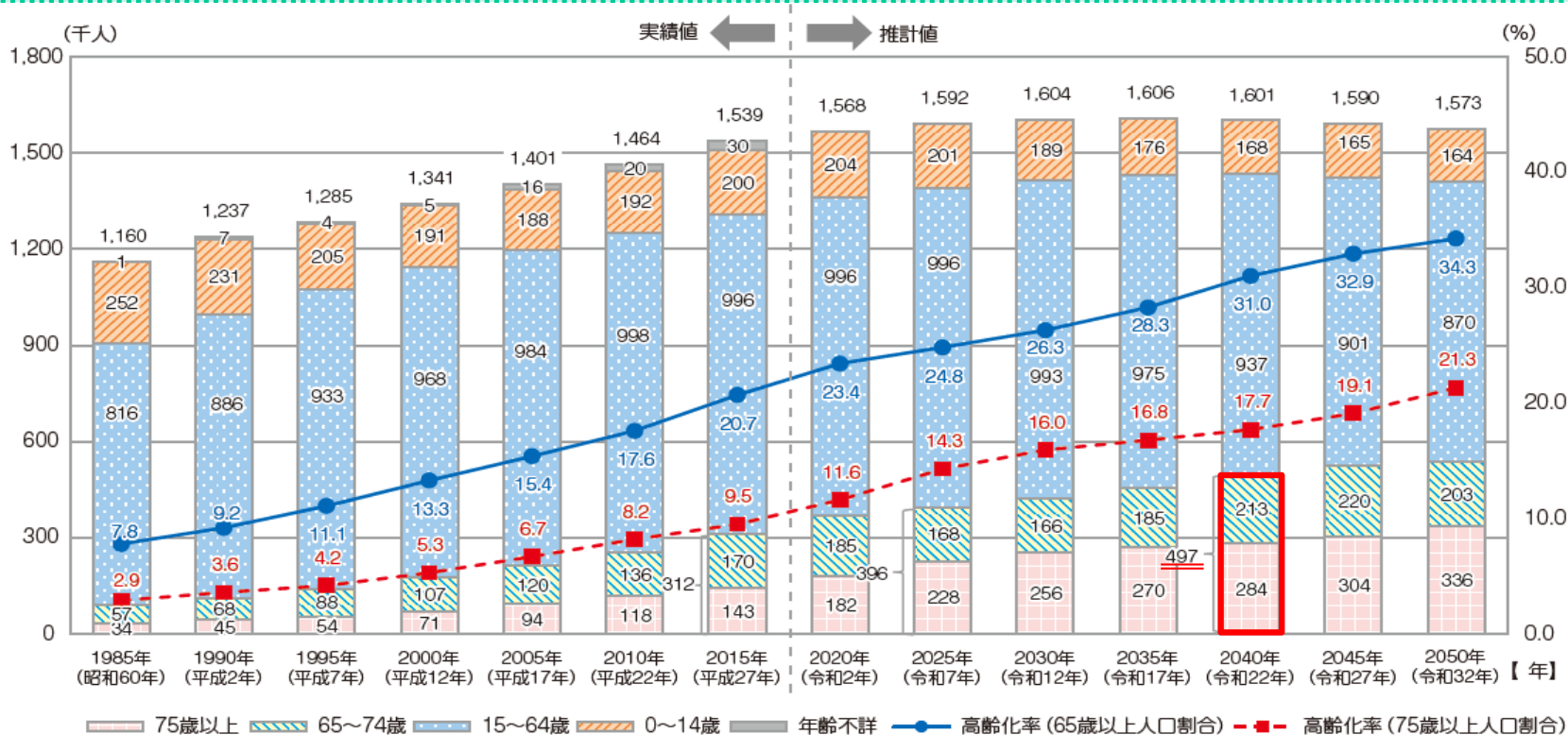


高齢社会と見守りの取組みについて

福岡市福祉局生活福祉部地域福祉課
令和5年3月

日本は超高齢社会をむかえ、福岡市も高齢化が進んでいきます。

- ・今後、福岡市の高齢化率は一貫して上昇し、高齢者数は下記グラフのとおり、2025年には39万6千人(2015年の約1.3倍)、2040年には49万7千人(約1.6倍)になると予測されています。
- ・特に、後期高齢者(75歳以上)の伸びが著しくなっています。

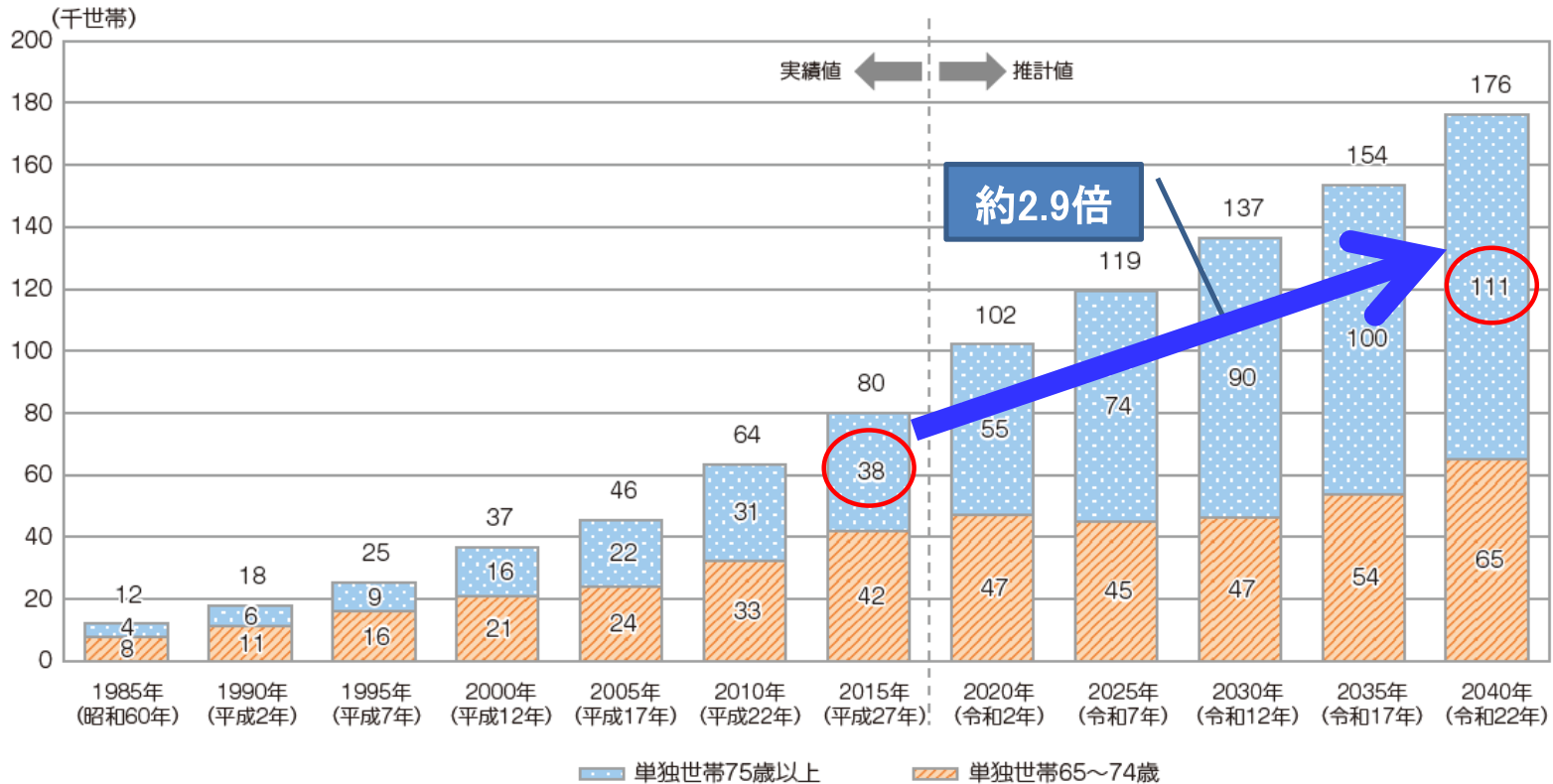


(注) 国勢調査の高齢化率 (人口割合) 算出にあたっては、総数から年齢不詳を除外している。

出典：「国勢調査 (平成27年度)」(総務省)、「福岡市の将来人口推計 (平成24年3月)」(福岡市)

後期高齢者の単独世帯の急激な増加が予想されています。

- ・65歳以上の高齢単独世帯は、今後も着実に増加していきます。
- ・特に後期高齢者(75歳以上の高齢者)の単独世帯は、下記グラフのとおり、**2015年と比較すると、2040年には約2.9倍に急増することが予想されます。**
- ・75歳を超えると介護の必要性も増すことから、様々な見守りの目が必要となります。

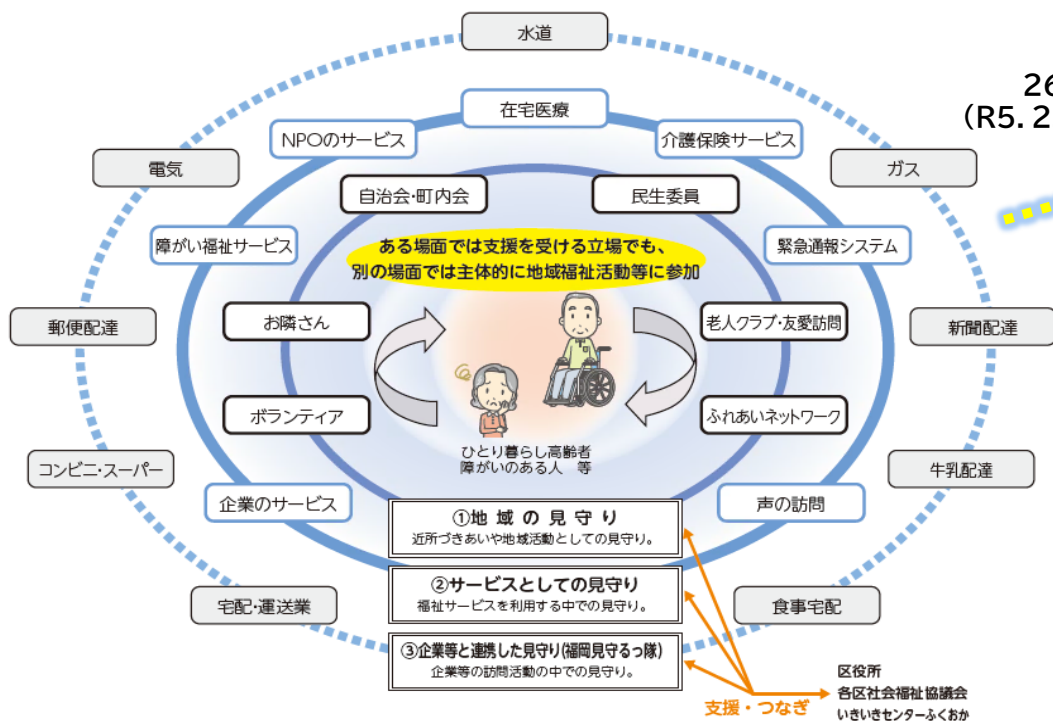


出典：「国勢調査（平成27年度）」（総務省）、「福岡市の将来人口推計（平成24年3月）」（福岡市）

福岡市は、様々な方々と共に重層的な見守り(見守りの輪)を目指しています。

- ・福岡市では下図のとおり、①地域の見守り活動(第1の輪)として、校区社協が中心となり「ふれあいネットワーク」を展開しています。
- ・さらに、②介護保険や福祉サービス(第2の輪)といったサービスの見守りを補完するため、平成25年から③ライフライン企業等が参画する「福岡見守るっ隊」等(第3の輪)を結成、あわせて孤立死などの疑いに対して安否確認を行う「見守りダイヤル」を設置し、より重層的な見守り体制を目指しています。

福岡市がめざす重層的な見守り



26社
(R5. 2. 1現在)

- ・九州電力株式会社福岡支社
- ・西部ガス株式会社
- ・福岡市水道局
- ・西日本新聞エリアセンター都市圏グループ
- ・読売新聞販売第一部連合読売会
- ・毎日新聞福岡市販売店連合会
- ・朝日新聞福岡・佐賀朝日会
- ・日本経済新聞西部専売店協同組合
- ・ココネット株式会社
- ・エフコープ生活協同組合
- ・森永乳業株式会社九州支店
- ・グリーンコープ生活協同組合ふくおか
- ・株式会社セブン・イレブン・ジャパン
- ・日本郵便株式会社(福岡市内郵便局)
- ・公益財団法人ふくおか環境財団
- ・福岡市農業協同組合
- ・公益社団法人福岡県医薬品配置協会
- ・布亀株式会社
- ・株式会社ベアーズ(福岡支店)
- ・株式会社進和プロモーション
- ・株式会社サンリブ
- ・あいおいニッセイ同和損害保険株式会社(福岡支店・福岡営業開発部)
- ・第一生命保険株式会社 福岡総合支社
- ・只松建設株式会社 福岡本店
- ・株式会社バルコ 福岡支社
- ・株式会社ラック

支援・つなぎ
区役所
各区社会福祉協議会
いきいきセンターふくおか

福岡市は、見守り推進プロジェクトとして、4つの事業に取り組んでいます。

・孤立死の防止などを目的として、高齢者の見守りをより重層的に行うため、協力機関を増やすとともに、孤立死の予防等を普及推進するために、平成25年度から4つの事業を開始しました。

- ①福岡見守るっ隊の結成 ②見守りダイヤルの設置
③出張講座 ④見守りサービス登録事業 → 現在は「ケアインフォ」

①福岡見守るっ隊の結成

- ・企業等の訪問によるサービスの中で、孤立死が疑われる住民の異変に気付いた場合、通報してもらった協定を締結

通報!

※地域で見守りを行う方などからも通報があります。

②見守りダイヤルの設置

- ・「福岡見守るっ隊」や地域で見守り活動を行う方から、孤立死が疑われる住民の異変の通報を受け、現地対応等を行う。

④見守りサービス登録事業

- ・企業の見守りサービス(国内実績100件以上)を登録、市のホームページ等で情報提供し、高齢者のサービス利用を促進する。

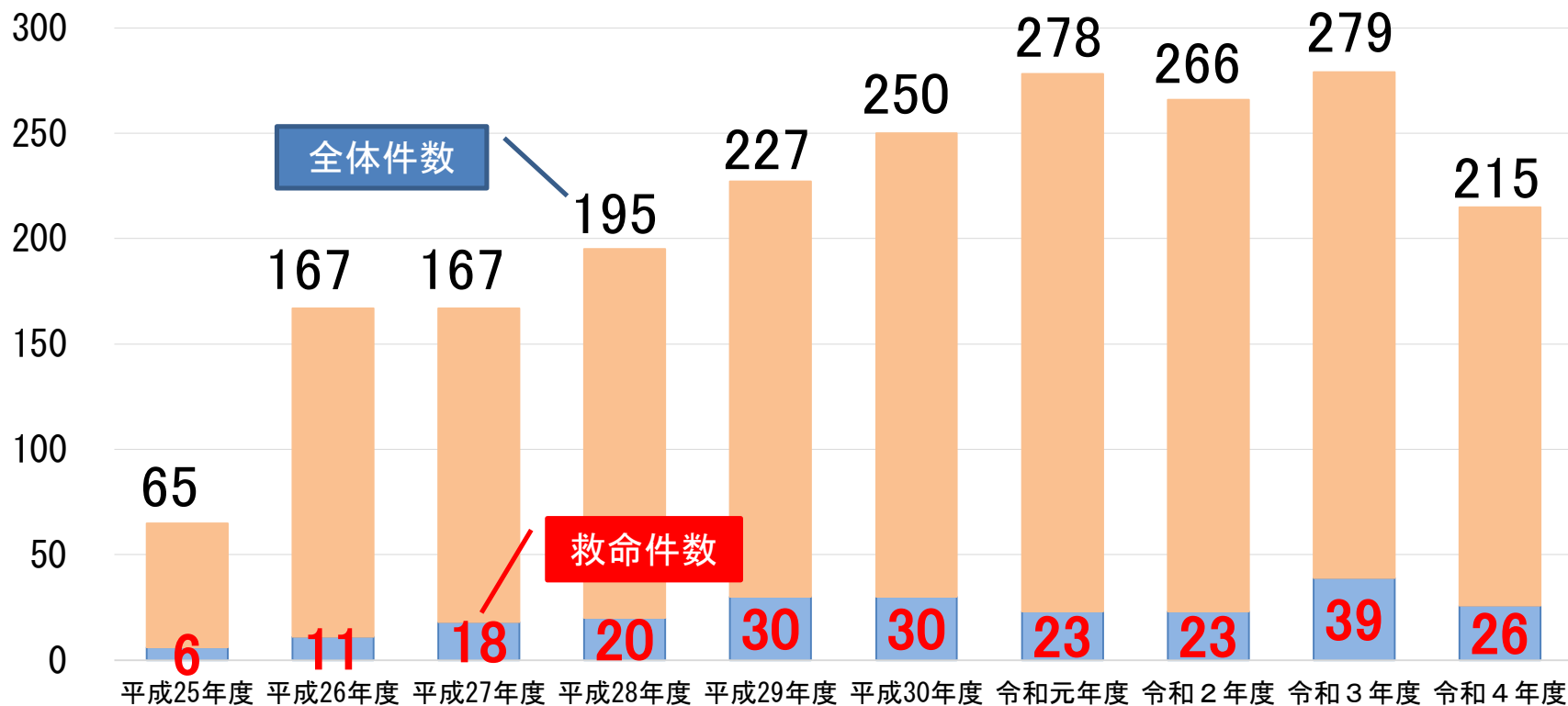
③出張講座

- ・孤立死や老いじたくの講座を地域で開催する場合、講師を無料で派遣する。

見守りダイヤルの通報件数は、年々増加傾向となっています。

- ・下記グラフの上段は通報全体件数、下段は全体件数内の救命件数です。
- ・見守るっ隊加入事業者や民生委員のほか、いきいきセンター(地域包括支援センター)や自治会関係者などから通報を多くいただいています。

この制服を見かけたら、協力をお願いいたします。



※令和4年度の件数は、12月末までの集計

見守りダイヤル通報時の対応の流れについて紹介します。

通報者:新聞配達員／対象者:単身高齢者／結果:室内で倒れており、救急搬送

気づき

- ・新聞が3日分溜まっている。
- ・訪問するが応答がなく、電話にも出ない。→心配して通報。

ダイヤル
通報

- ・いきいきセンター(地域包括支援センター)等に確認するも、対象者に関する情報なし。
- ・現場へ向かう。

3日分の新聞あり、本日配達されたと思われる商品が残されている。

現場の
対応

- ・再度、呼びかけを行うが応答なし。
- ・玄関等の現場の状況確認を行う。
- ・対象者に関する近隣の方の証言あり。
- ・対応中に通販のトラックが対象者宅に到着。
→本日が商品の配送指定日であった。
- ・現場の状況から、**対象者は室内にいる可能性が高い**と判断、警察官立会いの下、現場対応を継続する。
- ・親族と連絡が取れ、合鍵を持ってくる。
- ・**対象者は室内で倒れていた。→救急搬送。**

毎日、花壇の水やりをしているが、2～3日、姿を見かけない。玄関前の外灯が日中に点いていることはない。

親族・警察より
お礼あり。

周りの
反応

- ・対象者は室内で倒れていた。意識はあったが救急搬送に。
- ・見守りダイヤルの協力のおかげで命を救うことができた喜びの言葉。

見守りには、様々な効果があると感じています。

- ・日頃から訪問活動を行っている企業の皆様が、訪問活動の傍らで地域を見守ってくださることにより、下記のような効果につながります。

★日頃からの見守り(訪問活動)そのものが独居などの方の安心や日々の生活のリズムづくりにつながります。

★担い手不足が課題となっている民生委員など地域の方々の不安・負担軽減になります。

★人材不足の課題がある専門職の方の目が届かない日時の不安・負担の軽減になります。

★生活の変化を把握することで、認知症など予防的なアプローチが必要な疾病への早期介入ができます。

★高齢者等への住まいを提供する民間事業者の不安が軽減されます。

引き続き、福岡市の取組みにご理解とご協力をお願いいたします。